

研究者間の情報交換手段を主な用途として出発したインターネットが、WWWの出現やマルチメディア情報処理の普及などを契機として、急速に一般への普及が進み、社会インフラの一つとしての位置を確立しました。更に近年は、PCや携帯端末のみならず、スマートメータ、車載機、センサなど、様々なデバイスがインターネットにつながり、多種多様なトラフィックがインターネットで伝送されています。それに伴い、インターネットに求められる要求や機能はますます高度化しており、インターネットのアーキテクチャを含めた大きな変革が求められている状況となっています。そこでこの度、将来に向けてインターネットが役割を果たすために必要な、新たなアーキテクチャやその応用技術の提案、実証が重要となっていることに鑑み、「将来のインターネットのアーキテクチャとプロトコル並びに応用技術小特集」（2021年5月号）を企画致しました。

## 1. 対象分野

### (1) ネットワークアーキテクチャとプロトコル

モバイル/ユビキタス/アドホックネットワークアーキテクチャ、自律・分散ルーティング/ネットワークプロトコル、ロバスト/適応的/品質保証トラフィック制御、データセンターネットワーク、ネットワーク仮想化技術、SDN (Software Defined Networking)/NFV (Network Function Virtualization) 技術、センサネットワーク技術、車載ネットワーク技術、ID/ローケーション分離技術、情報セントリックネットワーク技術、遅延耐性ネットワーク (DTN: Delay Tolerant Networking)

### (2) ネットワークコンピューティングとアプリケーション技術

分散コンピューティング、グリッドコンピューティング、Edge/Fog/Cloud コンピューティング技術、ソーシャルネットワーク技術、ビッグデータのためのネットワーク基盤、モノのインターネット、サイバーフィジカルシステム、M2M通信、スマートグリッド技術、地球環境問題への情報ネットワーク・アプリケーション、アプリケーションとネットワークの連携技術、テレワークのためのネットワーク基盤、分散知識処理の基盤となるネットワーク技術

### (3) インターネットの新しい運用・管理技術

品質要望・満足度の分析法と品質改善法、QoS・QoE管理技術、テレプレゼンス技術、デジタル権利管理 (DRM) 技術、コンテンツ・セントリック・ネットワーク (CCN)、通信放送融合技術

### (4) インターネットのセキュリティとインターネットの社会的役割

セキュアプロトコル、ファイアウォール/フィルタリング法、侵入検知技術、トレース技術、認証基盤技術、社会的セキュリティ技術、教育・医療・福祉・災害対策などの社会活動におけるインターネットの利用の分析/提案、流通/経済インフラとしてのインターネットの利用法の分析/提案、インターネットと情報倫理教育

## 2. 論文の執筆と取扱い

- ・通常の英文論文と同一とします。
- ・ページ数は、原則として、論文の場合は刷り上がり8ページ、レターの場合は刷り上がり2ページを標準とします。初期投稿時のレターの最大ページ数は4ページです。標準ページ数を超えると、掲載料が急に高くなりますので御注意下さい。詳細は Information for Authors ([https://www.ieice.org/eng/shiori/mokuji\\_iss.html](https://www.ieice.org/eng/shiori/mokuji_iss.html)) を御参照下さい。
- ・査読後の再提出期間（通常は60日）を短縮する場合があります。

## 3. 投稿方法

- ・Webによる電子投稿のみ受け付けます。 [https://review.ieice.org/regist/regist\\_baseinfo\\_e.aspx](https://review.ieice.org/regist/regist_baseinfo_e.aspx) より登録を行って下さい。
- ・初期投稿時に、編集可能な論文本体 (TeX/Word)、図、著者の写真、biographyも投稿する必要があります。なお登録時には必ず“Journal/Section”で [Special-NT] The Architectures, Protocols, and Applications for the Future Internet を選択して下さい ([Regular-ED] を選択しないで下さい)。
- ・Webによる電子投稿の際、“Copyright Transfer and Page Charge Agreement”に承諾して頂きます。

## 4. 論文投稿締切日 2020年8月7日（金）厳守

## 5. 問合せ先

菅原真司

千葉工業大学工学部情報通信システム工学科

TEL/FAX [047] 478-0393 E-mail : ia-ed2020-sec@mail.ieice.org

## 6. 小特集編集委員会

委員長 菅原真司 (千葉工大)

副委員長 飯田勝吉 (北大), 塚本和也 (九工大)

委員 秋山豊和 (京都産業大), 石橋圭介 (国際基督教大), 伊藤嘉浩 (名工大), 大平健司 (阪大), 黄平国 (星城大), 地引昌弘 (NICT), 妙中雄三 (奈良先端大), 布目敏郎 (名工大), 義久智樹 (阪大)

## 7. 付記

\*締切日を厳守して下さい。

\*招待論文を含むすべての著者は、論文が採録となった場合、2021年1月頃に掲載料をお支払い頂くこととなります。2021年2月15日までに支払いが完了しない場合には、採録取り消しとなります。

\*投稿に際しては、著者のうち少なくとも1名は本会会員でなければなりません。ただし招待論文に関してはこの限りではありません。必要な投稿資格を満たしていない著者からの投稿論文については、投稿を受け付けないこととなりますので御注意下さい。入会の案内はこちらを御覧下さい。 <https://www.ieice.org/jpn/join/index.html>

\*オープン化：2017年1月号以降に掲載された電子情報通信学会英文論文誌Dのすべての論文を、J-STAGEを通じて全世界の読者へ公開しています。2020年1月号以降に掲載される論文には、電子情報通信学会の多くの論文誌で適用することができるオープンアクセス オプションを適用することができなくなります。(オープン化は、2020年1月以降も継続する予定です。) オープン化とオープンアクセス オプションに関する詳細は、“Information for Authors” ([https://www.ieice.org/eng/shiori/mokuji\\_iss.html](https://www.ieice.org/eng/shiori/mokuji_iss.html)) を御参照下さい。オープン化とオープンアクセス オプションに関しては、予告なく変更されることがあります。